



寿

100歳 おめでとうございます

7月12日に松尾チヨ子さん、7月14日に上田アヤ子さん、7月23日に谷口スミエさんが100歳の誕生日を迎えられました。



松尾チヨ子さん (樺下)

若い頃は裁縫が得意で、盆と正月には家族の希望するデザインで衣服を新調するのが恒例でした。長寿の秘訣は好き嫌いなく食べること。今でも一人前しっかり完食します。本人は「100歳はあっという間でした」と話していました。



上田アヤ子さん (新図)

若い頃は家業の絹織物を手伝い、結婚後は力仕事をしながらも4人の子どもを育て上げた働き者です。現在は週4回のデイサービスを楽しんでいます。長寿の秘訣は「のんきに暮らすこと」、笑顔が明るいおばあちゃんです。



谷口スミエさん (荒尾大谷)

若い頃から働き者で、90歳近くまで自転車で買い物に行っていました。現在でも、庭の草取りをしたりします。健康の秘訣はよく食べることで、好物はコロッケや肉料理。孫やひ孫が撮ってくれた家族との写真を大切にしています。

7/1 干潟って、楽し～!

～有明小のテラー体験～

▶泥だらけになりながら郷土の宝を体感しました



荒尾干潟水鳥・湿地センターで有明小4年生のテラー体験が行われました。校区内にあるラムサール条約湿地の荒尾干潟について知り、郷土により親しみを持ってもらおうと企画されたものです。児童36人はセンター内の見学や荒尾干潟についての話を聞いた後、片道5分ほどをテラーに乗り沖合へ。干潟で遊ぶ子どもたちの声は1km以上離れた岸まで届き、「テラー楽しかった!」や「カニやヤドカリを見つけたよ」と楽しそうに話していました。

7/17 医療従事者へ感謝の気持ちを

～市民病院へ有明海産の海苔を贈呈～

▶大嶋管理者(中)へ海苔を贈呈した平田会長(右)と西川組合長(左)



新型コロナウイルスの対応にあたる医療従事者への感謝の気持ちを伝えるため、有明地区の漁師が参加する有明地区漁業士会から荒尾市民病院へ有明海産の海苔の贈呈が行われました。市民病院で贈呈式が行われ、同会の平田洋会長と荒尾漁協の西川幸一組合長から大嶋病院事業管理者へ焼海苔6,400枚が手渡されました。平田会長は「何か力になりたいと思っていた。今後も感染に気を付けて頑張ってください」と医療従事者にエールを送りました。

僕らのまちの
学校通信
～地域の皆さんにお届けします～
今日は「清里小」からのお便りです

笑顔いっぱい 清里小

やさしさいっぱい・知恵いっぱい・元気いっぱい

清里小は全校児童91人の小さな学校ですが、「笑顔いっぱい」をキーワードに「やさしさいっぱい・知恵いっぱい・元気いっぱい」な子どもたちが力を合わせてがんばっています。ことしから、笑顔いっぱいの子どもたちを育てるために「コミュニティ・スクール」の取り組みをスタートしました。

～清里小の3つの自慢を紹介します～

あいさつ



児童会が中心になって「あいさつ」を推進しています。先日は、学校の駐車場に「おはよう」の言葉を大きく書き、みんなにアピールしました。

花いっぱい

4月、19人の一年生が入学。感染拡大防止のため、規模を縮小して行った入学式の会場は、子どもたちが心を込めて育てた花でいっぱいでした。



あたたかい地域と保護者



荒尾梨の栽培や海苔すき体験など、地域の皆さんに支援をいただくことで、体験とおした学習を展開しています。

SDGs 始めてます vol.2

未来のために世界が取り組むべき17の目標「SDGs」。市内での取り組みを紹介します。

干潟保全

荒尾干潟水鳥・湿地センター



◀館内には大人も子どもも楽しめる展示物がたくさん。マジック釣りの疑似体験もできます。

センターに遊びに来ませんか

- 開館時間 午前9時～午後5時(月曜休館)
 - 入館料 無料
- 〒荒尾干潟水鳥・湿地センター ☎57-7444

荒尾干潟水鳥・湿地センターは昨年8月にオープンした九州で唯一(日本で11カ所目)の水鳥・湿地センターです。このセンターでは「干潟保全」を通じてSDGsに取り組んでいます。

干潟保全で1番の課題はゴミの問題。中村センター長は「以前は漂着物が多かったが、最近は弁当がらなど海岸利用者のゴミも増えている」と話します。そのため、企業、学校、漁協、一般のボランティアの皆さんが定期的に海岸清掃を行っており、参加者は年々増加しています。

また、海を知ったり海の恵みを食べたりすることも干潟保全に役立っているんです。学習や食を通じて海を大切に想う気持ちが干潟保全につながります。

まずは身近な荒尾干潟を知ることから始めてみませんか? 故郷あらおの海がもっと好きになるはずですよ。